

リスク減 手探り



水中ロボット操作を体験する児童
＝23日午後2時半、枕崎市の鹿児島水産高校

鹿児島
コロナ禍
半年 ⑤

宿貸し切り、行き先変更も

前例なき修学旅行

新型コロナウイルスを迫られている。行き先を県外から県内に変える学校が増える中、実施に向けて異例の対応。保護者が不安を感じな

いよう参加の合意形成に時間をかけたり、安丸ごと貸し切ったりと模索が続く。関係者からは旅先で感染者が出た際の対応の難しさを指摘する声も上がる。

例年の旅行先だった熊本県から南薩地区に変更した鹿児島市の西伊敷小学校。6年生53人は23日、枕崎市の鹿児島水産高校を訪れ、水中ロボット操作やユウザメの水槽見学を楽しんだ。

担任教諭は体温計を持参し、1日3回検温。旅館には体調を崩した児童を受け入れる救護室を3部屋確保した。中川麻友君は「感染しないためお土産を選ぶ時にも物に触れ過ぎないようにしている」と注意を払っていた。

▽大部屋回避
志布志市の松山中学校は保護者の意向を重視する。7月以降、P

TA役員らと協議し、11月に2泊3日の奄美大島行きを計画。保護者向けに説明会を実施した。9月末に同意書を配布し、意見を集約した上で正式決定する。

同意書で不参加が多い場合やクラスター（感染者集団）などの発生に備え、県本土も視野に入れる。川口孝校長は「あらゆる可能性を考え、慎重に決めていく」と語る。

鹿児島市の武岡台高校はホテルを貸し切り、感染リスク低減に努める。例年は5、6人の大部屋を割り当てるが、一部屋当たり2、3人に変更して宿泊先を探した。加藤寛一教頭は「業者の協力でホテルをおさえることができたが、何件も断られるほど難しかったようだ」と明かす。

▽打ち切り視野
行き先を県内に変更した西之表市の榕城小は3密を防ぐため40人定員のバスを例年の倍の4台用意し、約20人ずつ乗車する。予備マ

一部の学科が台湾行きを予定していた鹿児島市の錦江湾高校は、保護者アンケートを実施し、新たな行き先を検討中。早崎晋一教頭は「全国的に感染が広がる中、一概に県内が安全とも言えない状況。リスクをゼロにするのは厳しいが、安全第一に進めたい」と話した。（鹿児島彩夏）

鹿児島のよさを再発見
”
心に残る感動は
生まる光の
もとになる”